

令和4年第18回（定例）高砂市教育委員会 会議録

日時

令和4年10月27日午後6時00分

場所

高砂市役所南庁舎2階会議室2

出席者

衣笠教育長、吉田委員、山名委員、神尾委員、

欠席者

吉屋委員

出席事務局職員

永安教育部長、木田教育推進室長、藤原学校教育室長、三木教育総務課長
四方生涯学習課長、高橋学校給食課長、福永学校教育課長

本日の会議に付した事件

議案

- 1 職員人事について【非公開】
- 2 職員の兼業について

協議事項

- 1 令和5年度教育委員会予算要望について

報告事項

- 1 高砂市議会令和4年9月定例会の報告について
- 2 夜間中学への広域受け入れについて
- 3 令和4年度全国学力・学習状況調査結果について
- 4 令和4年度トライやる・ウィーク視察計画について
- 5 高砂市教育委員会事業後援について

その他

- 1 11月行事予定について

議 事 議案 1 職員人事について【非公開】

- 教育長 議案の1つ目が職員人事についてです。地教行法第14条の7項に、「人事に関する事件その他の事件について、教育長又は委員の発議により、出席者の三分の二以上の多数で議決したときは、これを公開しないことができる」とありますので、これは非公開で行いたいのですが、よろしいですか。全員の委員の皆様の賛成がありましたので、議案の1については非公開といたします。

(非公開のため別途会議録作成)

-
- 教育長 それではこれより公開といたします。原案可決とします。

議 事 議案 2 職員の兼業について

- 事務局 (議案2について説明)
- 教育長 高砂小学校の介助員の方の兼業についてですが、何か御質問はございますか。よろしいですか。ご承認いただきました。

議 事 協議事項 1 令和5年度教育委員会予算要望について

- 事務局 (協議事項1について説明)
- 教育長 今後1年から2年の部分と、3年から5年の部分とに分けて書いていますけれども、どちらからでも結構ですので、何か御質問、御意見をお願いします。
- 委員 1番の(1)ですが、介助員とかスクールアシスタントの数があまりにも少なすぎて、その子を支援学級にするか、通常学級にするかが難しいというのがある。特に問題なのは、中学校での介助員が少なく、小学校の半分ぐらいの数が中学校にいないといけないのに、幾ら要望しても全然置いていただけない。児童生徒の生活の中で、それに関わる教職員の方々の日々の問題ですけれども、なかなか予算化してもらえなくて、子供をどの部屋に入れたら適切な教育の場を提供できるのかというとき、難しいことが起こるので、早急に対応してもらいたい。なかなか増員が思うとおり進まず、ニーズに対して認められないのは、すごく怠慢だと思うので、より積極的に言っていただきたい。その子に適した教育ができないし、ほかの子にも影響が出る。その子を1人、特別支援学級のほうに置いておくわけにもいかないし、色々な環境が整わないので、近々のテーマなのにずっと放っておかれているので、強く要望してほしいと思います。何年も同じことを繰り返して、教育に対して全然興味ないのかなと思うような憤りを覚えるぐらいです。

- 教育長 ありがとうございます。(1)、(2)、(3)というのは、強く思いを届けたい順番になっていると理解していいですか。
- 事務局 そうです。
- 教育長 去年もその前の年も、(1)の特別教育、支援教育に係る支援員の充実ということをお願いしているのですが、なかなか人数が増えていないような状況であります。適切な予算措置ということで、1番に持って来ていますが、担当としても、市長部局といろいろ調整しながら交渉していますが、改めて、市長の方に予算要望するときに強くお願いしていきたいと思います。教育委員の方々にも御支援をいただいで、背中を押していただけたらと思います。
- 委員 (3)スクールサポートスタッフの継続配置というのがありますけれども、学校司書のほうは継続配置で出しておかなくても減らされないのですか。
- 事務局 学校司書のほうも予算要望としましては、継続配置はもとより、国が5か年計画で上げております人数に比べますと、今年やっと4人ついたので、それよりも増員するというので、ここには載せていないのですが、別に要望はしております。
- 委員 まず1つ目は、特別支援教育のスクールアシスタント、介助員についてです。中学校の現場にいた者として、小学校6年生までは介助員、スクールアシスタントは毎日いたのに、中学生になった途端にいなくなったというところで、本人も含め、保護者も非常に困っていました。これは本当に切実な問題だと思いますので、重ねてになります。ぜひよろしくお願ひいたします。
- あと、2番目の看護師の配置ということですが、これは具体的な数値目標とかはあるのですか。
- それから3つ目、スクールサポートスタッフの継続配置ですけれども、これは現場の方で、非常に好評と申しますか、頼りになる配置だと聞いていますので、ぜひよろしくお願ひいたします。
- もう1点、重点事業要望の(1)ですが、小中学校空調設備の整備というのは、緊急事業予算要望のほうに繰り上がらないのですか。3年から5年というのは、緊急のほうの1～2年に繰り上げられないのかなというのがあるのですが、どうなのでしょう。
- 教育長 (2)の医療的ケアの具体的な数値はありますか。
- 事務局 市内の小中学校のほうにおいて、2名ほどの配置が必要だということで進めております。
- 委員 中学校はいないですか。
- 事務局 今はいないです。
- 教育長 もう1点、空調の方をお願いします。
- 事務局 空調設備につきましては、予算要求はさせていただいているのですが、情報教育の整備とかで億を超えるような中では、優先順位の関係もありまして、このたびは、1の(4)を重点にさせていただいて、2の(1)については、それが終わ

った後の段階でというところで、優先順位は下げさせていただいております。ですが、予算要求については、させていただいています。

○委員 夏場は非常に暑いですし、空調というのは本当に頼りになるので、何とか上位に入れていただけたらなという思いです。また、よろしく願います。

○教育長 よろしいですか。他に何か意見はございますか。
御意見をいただいたことを踏まえて、市長の方に予算要望する際にはよろしく願います。

議 事 報告事項 1 高砂市議会令和4年9月定例会の報告について

○事務局 (報告事項1について説明)

○教育長 先ほども意見が出ましたように、エアコンにつきましては複数の議員さんからも出ていますし、介助員、スクールアシスタントの増員についても、一般質問及び決算でも出まして、議論はさせていただきました。何か御質問はございますか。

○委員 部活動の地域移行を見据えた受皿という中で、アンケートで120名ほどの回答が集まって、約4割が今後も部活動指導を希望しているということですが、希望しているというのは、もちろん土日ですよ。自分の中学校の部員のみを指導するのか、それとも合同チームのように枠を広げて、平日は自分の中学校の部員のみ、土日になるとその枠を取り払って、高砂市内だったらどこでもいいですよとか、どういうアンケートですか。希望はするけれども、自分のところだけですよとか、市内全部どこでも希望者があればいいですよとか、これぐらいの報酬が出ますみたいな、そういうところまで突っ込んだものか、どういうアンケート内容だったかを知りたいのですが。

○事務局 このたびのアンケートは、そこまで細かいものではなく、報酬とかにかかわらず、土曜日、日曜日に部活動の指導を引き続き行ってもよい、外部指導員と一緒になら行ってもよいというような、その程度の内容です。その他の項目で、自分の専門の種目だったらしてもよいというような回答もありましたので、それらを含めた4割程度の方が何らかの形で、前向きというか、引き続き指導したいという気持ちがあるというところをつかませていただいたという現状です。

○委員 外部指導員がないほうがいい、外部指導員と一緒にがいいとか、その辺は。

○事務局 そこまで細かくはしていません。

○委員 これは120人の先生にアンケートをしたということですか。

○事務局 中学校の先生方全員に配布して、現時点で120人ぐらい返ってきたということで、今現在、全ての回答結果がどうなっているかというのは答えが出ていない状況です。

○委員 部活動に関与している先生、全く関与していない先生も含めての120人ですか。

○事務局 はい。

- 委員 部活動に関与している先生方が120人として、4割が今後も活動したいということは、あとの6割は、もう今後しませんという意向ですと解釈したのですが、4割の人はやってもいいけど、部活動がない人にせよ、6割の先生はもう今後こういう部活動のことに関わりたくないという意向があるということですよ。
- 教育長 休日の部活動の地域移行が進んでいますので、土日のことに関してです。
- 委員 土日の分だけですね。
- 教育長 はい。
- 委員 平日の分は入っていない。
- 教育長 入っていないです。
- 委員 平日の分の関わりは調査していないですか。
- 事務局 平日については、現状と変わらない形で考えていますので、休日についてどうするかということのみです。
- 委員 平日でも、現在の状況とは違って、将来、部活動をしないような状況ってありますよね。それに対してのアンケートはしていないですか。
- 事務局 平日のことについては行っていません。
- 委員 していない。もうあるものとして。
- 事務局 3年かけて、休日の部活動地域移行、その後、どのタイミングになるか分からないですけど、平日も同様になりますので、現時点では、休日のみで取らせていただきました。
- 委員 将来、学校の中で部活動に関しては、拡大が進んで先生は関わりませんよという、そういうアンケートではないわけですね。
- 事務局 はい。
- 委員 それでも、6割の先生方が土日に関して関わりたくないという意向ですよ。
- 事務局 はい。
- 委員 12ページの(3)に、市として週に1回程度臨床心理士を配置して、カウンセリングや発達検査ができるようにできないかを伺う。とあるが、どういう意図でこう言われたのか理解ができないのですけれども、何のためにこういうことを言われたのでしょうか。
- 事務局 他市町の方で、高砂市で言うのびのび教室、適応指導教室で働かれています、その市町は、毎週違った日に、委託で1つの部屋に、こういう方が来られていて、決まった曜日にそういう検査を受けられる、相談に乗れるという体制を取られていたので、高砂市でもどうですかというような趣旨で質問されています。
- 委員 週1回発達検査やカウンセリングをすることに何の意味があるのか。制度だけのことを聞かれたわけですか。議員の方がどのように聞いたのかよく意味が分からないので。自分が経験してきたことで、そういうのがあるから、高砂市もありま

すかと聞いているだけなのか、本当に必要で、そういうのが分かって設置していただけますかといった意図があるのか、これからは全然伝わらないので。

○事務局 決まった曜日にここに行けば相談が受けられるというような、保護者が相談に行きやすい体制をつくれなにかということを思われていました。

○教育長 概要ですので、細かいところまでは伝わらない部分もあるような感じを思いましたけれども、今後の高砂市の教育に活かせたらと思いますので御意見をいただけたらと思います。

それでは、何かありましたら、またの機会で言っていただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

議 事 報告事項 2 夜間中学への広域受け入れについて

○事務局 (報告事項2について説明)

○教育長 説明は終わりました。御質問ございますか。

○委員 負担金は、最初の15万円から20万円は姫路市に払って、1人当たりの就学援助金は、年間15万円を個人に援助するという理解でいいですか。

○事務局 はい。

○教育長 よろしいでしょうか。

それでは、スケジュールに合わせて進めていきたいと思います。

議 事 報告事項 3 令和4年度全国学力・学習状況調査結果について

○事務局 (報告事項3について説明)

○教育長 説明は終わりました。御質問ございますか。

○委員 15ページの理科の分、何となく衝撃を受けました。理科の高砂市の下位層が43.6%、全国が35.1%と本当に下位にシフトした形で、中位層のところのごそっと抜けていて、正解率が落ちているということですよ。習ったことしか出ないはずなのに、授業をしていなかったとかそういうことでもないでしょうし。

○事務局 理科に選択肢がないというところがポイントで、答えを選ぶような問いだったらいいですけども、理科の問題も結構長文になってきておまして、今までのように資料を見て、短文の設問という形ではなく、いろんな資料、データを絡めた長文をまず読むということ、そういう理科のテストの形になり、読むというところに抵抗があって、さらに書かないといけないというところで、今まで持っている知識を書いたり選んだりするだけではないというところで、このような結果になっています。そういう学力・学習状況調査の問題に対して、頭の中で分かっているけれども、それをちゃんと書けないといけないというところは、ある程度訓練といえますか、そういう慣れも必要なのかなとは考えております。

○委員 傾向と対策を練らないといけないということになりますよね。今年の傾向が違ったといたら全国一緒でしょうから、どこも傾向と対策はやっていないし、事前に過去問をやるとか、そんなものない。高砂市だけ、ほかのところも難しかったのだろうと思いますけど、そこができていないのは何でこんなことになるのか。今言った問題の形式とかも確かに難しかったのでしょけれど、他の学校でも地区でも同じような形になっているので、全国平均と乖離するのは、今の答えの解釈とは違うのかなと思います。

○教育長 問題の形、問いかけの方法、問題自体が難しいということもあるのかもわかりませんけれども、それよりもやはり問題を読み解く力がなかなか育っていないということが大きな課題であります。国語の読解力とかも影響して、書いたり、自分の思いを言葉で発表したり、そういう授業をしっかりとやっていくことがまだまだ不十分だという課題が見えてくると思います。今までもそういう課題があるということは学力向上対策会議の中でも議論されて、意識は持っていておると思うのですけれども、なかなかそれを授業改善に結びつけて結果に出ていないということが、今後も粘り強くやっていかないといけないと、改めて課題だと分かりました。分かっただけではいけないですけど、もっと取り組んでいく必要があるなということを学力向上対策会議の中でも議論していきたいとは思っています。

○委員 中学校の場合、理科や国語、数学ですけど、どうしても分析が、その教科担当者だけになってしまう。それはある程度やむを得ないところがあるのですけれども、読解力とか書く力とかが何十年という長さで課題になっていますよね。書く力とか読解力というのは、国語や数学だけの問題ではないので、特に中学校の場合は、社会や音楽や体育や技術までを学校全体、市全体としての課題として意識するために、分析とか対策を含めて、他教科の先生方にも入っていただくようなことも、自分のときはやったことがあるのですけれども、学力向上対策会議とかを通して、中学校の分析とか対策というのは、他教科の先生は入っているのでしょうか。それとも、国数理の教科担当者だけがやっているのか、その辺はどうなのですか。

○事務局 基本的にはその教科の先生が集まってということになっております。

○委員 そうですよ。そこで、ほかの先生も入ってもらいましょうということをしていかないと、学校全体としての取組へ広がっていかないと思うのですよね。ですので、対策というのはずっと同じようなことが言われていて、なかなかすぐには効果が出ないと思うので、違うことをしていかないと無理かなと思うので、せめてそこはできると思うのですよね。学力向上対策会議で声かけをして、持って帰って、他教科の先生も、理数系の先生も、体育の先生も入っていただくということをすると思うし、何かそういうことをしていかないと。それがすごく大事なことだと思う。

- 事務局 各校から出たものを学力向上対策会議推進委員がまとめておりますので、各校で、それぞれの分析は担当レベルでまとめないでくださいというふうに指示していますので、各校の分析においては、必ずそれぞれの小学校、中学校の全職員が関わって分析しております。そして、各校、16校から集まってきたものを再度、市として分析するのを推進委員の方にさせていただいておりますので、まとまったものを今度は還元するのに、推進委員の方を中心に、必ずまた学校に持ち帰って、全職員に共通理解して、授業改善、研究推進とかで広めてくださいということは、直近の会議で念を押させていただきます。
- 委員 中学校は、そこで広がるというのは現実的に難しい部分があると思うので、具体的にどういう先生が分析しましたとか、対策を練りました、ということを具体的にやっていかないと「全員でやりましょうね」「はい」という話にはなると思うけど、実際、「国語の問題なんて無理」みたいな話が今までもよくあったので。
- 事務局 あると思います。
- 委員 そこをやっていかないと、その部分はもう教科の枠を外していかないと、現実的な問題として、「これで無回答か」みたいな、そういう現実を知ることはしていかないと、なかなか1つハードルを越えられない。他教科の先生にとっても、自分が授業をする上で、方法として、自分に戻ってくることだと思うので、決して無駄な時間にはならないと思うので、やっていただけるだけの効果はあるかなと思います。
- 委員 平均点は取らせてあげたい。最低でも平均点はないとかわいそうなので、保障してあげないといけないと思うのですよ。自分の言葉で自分の考えをきちんと語れないというのは、大人になって非常に不利なことで、この地域から社会に出て、身内だけで生活している分にはいいですけど、子供たちも大人も会話を聞いていると、ふだんの言葉に対して無頓着な気がして仕方ないです。単語だけで喋るような感じで通じてしまうのですよね。けど、違う地域に行ったらそれは通じない。そして、出ていった子たちは会社で報告なんかしたら、誤解されることが多いということで悩んでいる子をよく聞きます。小中学校で、正しく自分の気持ち、考えを伝えられるように育ててあげないと、その子供たちの将来が非常に重いものになってしまうので、これだけ結果がずっと同じで、その問題が出ている以上は、本当にしっかりしてあげないといけないと感じています。先生方も家庭でもそうですけれども、会話とか言葉というのを、もっと意識して子供たちに接していただければなと強く感じています。
- 事務局 学校で、先生の話言葉とか先生の切り返し方、子供が単語で答えたことを先生の認識で全部分かってしまっただけよりかは、家庭でもそうですけれども、小さい子に対して、分かっているけどあえて、「どういうこと」と、分からないふりをして聞き返して、子供がもっと適切な言葉をくっつけて表現できる、例えば「ティッシュ」だけでも、ティッシュを取ってほしいのだなと思っても、「ん？どうい

うこと」と聞いて説明をさせて、小さい子からしたら、そういう積み重ねで、こういう言葉を使わないと相手に伝わらないのだなと学んでもらう。スマホのショートメッセージや絵文字で表現してしまう時代だからこそ、学校の授業の中では先生がより一層、言葉一言一言を大事に、敏感になって子供に切り返していくということが重要だと思いますので、伝えていきます。

○教育長 ぶだんの学校生活でもそうですし、学校の中でほとんどの時間を過ごしているのは授業ですから、その中で話し合い活動とか、自分の意見を発表する機会をしっかりと増やしていくことによって、子供の表現力も高まって、読解力につながると思いますので、そういった授業改善を改めて強く意識していただいて、授業の中で子供を育てるという意識を持っていただくように、学校のほうに発信していきたいと思います。

○委員 家庭の中でも、親と子供や子供同士の会話がすごく途切れているから、ティッシュを1個取るに当たっても、何で必要であるかというのを、会話を成り立たせるために説明しないといけないから、以前は一斉に前を向いて、完全な植込み式の伝達方式の授業だったけれども、今は改善されてきているのが現状である。しかし、会話、対話がまだまだ少ない。先生の授業計画で、先生が待ちの姿勢をとって説明させることでコミュニケーションを取り、他の子はどうかとか一人ひとりの意見等をディスカッションしていくような形の授業がすごく大事で、意見を言うためには喋らないといけないから、授業の内容を1人で聞いているというよりも、他の人が発表したことを聞いてどう思うのかを言えるような授業の在り方をすると、違ってくるのだろうと思う。どこまでそれが反映して出るのか、実際、もっと話し合う、会話する、対話するよううるさい授業がすごく大事だろうと思うので、先生がいっぱい喋っているよりも、説明しなくても分かることが出てきたら、生徒自身で話し合ったり、先生も一緒に入って考え、質問していく形とかを考えて思考していく授業は、どの教科でもあっていいのかなと思ったりする。

全教科的な問題で、他教科の先生方も授業の在り方として、絵を描くなら絵を描くけれども、絵の描き方に関して、絵の中に含まれているどんな印象があるのかというのを聞いて、深く掘り下げていくような会話があって初めて成り立って、思考過程が働くのだろうなという気もする。しかし、本当に授業の在り方に関しては、それぞれプロフェッショナルでやられているので、「何をしているのか、結果が出ていない」と言うのも心苦しい。でも、子供たちには自信を持たせてあげたいので、子供を褒めて、一生懸命やる気を起こしてやってもらうのも仕方ないかなと思う。

子供たちは意外とこの結果って全然興味ない。親も意外と興味なくて、先生方と一部の人がかなり意識して、せっかくの資料だから改善していこうと、子供たちにいい結果を生むように動こうと努力をしているだけで、子供とも、保護

者ともギャップがあり過ぎて、家庭内での教育をやってほしい、話し合っしてほしい、いろいろな体験もしてほしいと言っても、なかなかしてくれないから難しいですね。

- 教育長 教師の指導に活かすというか、これからの時代を生きていく力をつけるという意味での調査の内容にもなっている。そこで、平均に満たない形が大きな課題でありますので、子供たちが将来社会に出たときに、しっかりと未来を切り開いていくような子供に育てていくことが課題です。今いただいた意見も踏まえて対応していきたいと思います。

議 事 報告事項 4 令和4年度トライやる・ウィーク視察計画について

- 事務局 (報告事項4について説明)
- 教育長 説明は終わりました。特に、教育委員さんの視察というところでお時間が許すようでしたら、見ていただいて、御意見をいただけたらと思っているところです。何か御質問はございますか。
- 委員 集合場所はどこですか。
- 事務局 具体的な集合場所は、改めて連絡させていただきます。

議 事 報告事項 5 高砂市教育委員会事業後援について

- 事務局 (報告事項5について説明)
- 教育長 説明は終わりました。御質問ございますか。
- 委員 1番のボノスとはどのような団体ですか。
- 事務局 事務局が神戸市西区伊川谷のほうにある、サッカーが初めての子供、好きな子向けの指導を行っている団体で、「全ての子供たちにスポーツの楽しさを伝え続ける」を理念に掲げ、子供向けのサッカークリニックや走り方教室、各地で保育園や幼稚園への無料巡回スクールを行うことにより、子供たちに、健全で人間力を持った人材を育成することを目的としている団体です。

議 事 その他 1 11月行事予定について

- 事務局 (その他1について説明)
- 教育長 説明は終わりました。何か御質問ございますか。10日木曜日の午後からのトライやる・ウィークの視察と、24日定例教育委員会の後、予算要望のお時間をいただくことを付け加えておいていただけたらと思います。
- 委員 トライやる・ウィークは3年目ぶりになるのですか。通常どおりに2日間ですね。
- 教育長 そうです。

- 委員 コロナのこともあって、事業所がなかなか見つからないというか、思うように開拓できないということを聞いていたのですが、結果的に充足しているのですか。それとも、5日間実施するけれども、事業所が足りないから待機ではないですが、学校で何かするみたいなどころもあるのですか。
- 事務局 今のところ5日間実施ということで聞いております。
- 教育長 よろしいですか。他に何か御質問がありましたら。
特にないようですので、今日いただいた意見を、学校の方にも伝えて、いろんなところで反映していきたいと思います。

令和4年10月27日 午後7時48分 教育長会議の閉会を宣告
